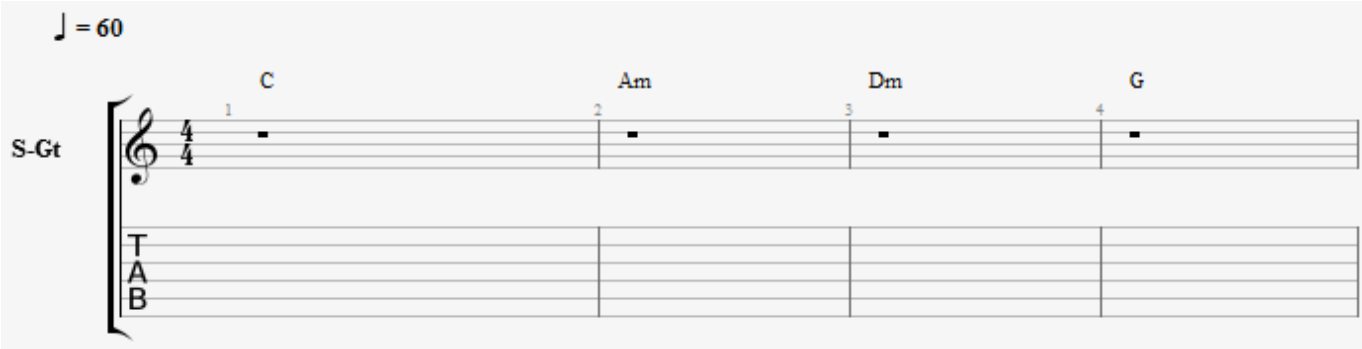
Vol.32　実は重要な、1 本弦上でのフレーズトレーニング　～その 2～

『10 分トレ』vol.32、始めていきましょう。

前回に引き続き、1 本弦上でフレーズを弾くトレーニングを考えてきます。

とは言え、今回は複数の弦を使うのですが。

設定は前回と同じ、C キーの 1-6-2-5 の進行の上で、C メジャースケールを使ってプレイする、と言うものです。



さて、一応、本題は「1 本の弦だけを使う」と言う事になっていますが、これは「トレーニングの制限」として設けているだけで、実際に楽曲を演奏する時は、必ずしもそうするわけではありませんよね。

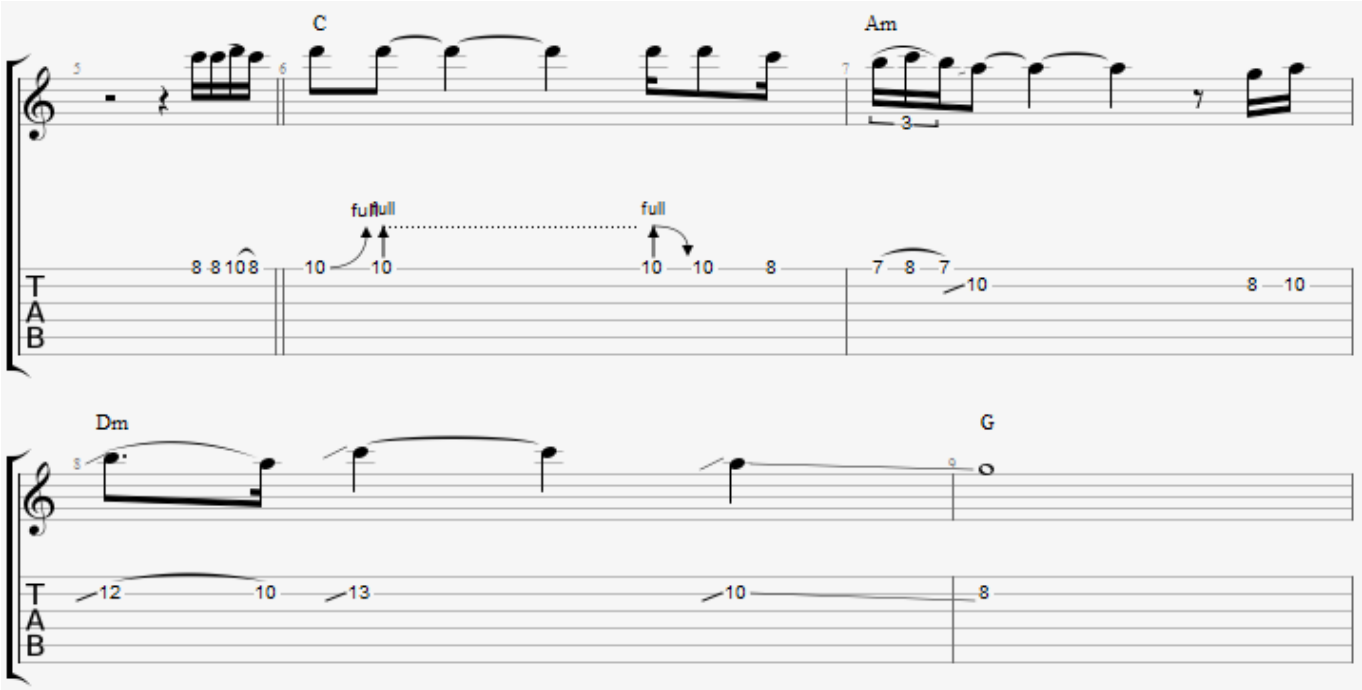
この制限の意図としては、普通に「スケール」を意識すると、縦(6～1 弦まで)のブロックポジションから離れにくくなりやすい事から、無理矢理、横移動が必要になる様なルールを作っているものです。

ただ、これはある種の「矯正」の為にやっている様な部分もあるので、このトレーニングから生まれたフレーズを実践ではどうするのか？、その辺りを考えてみましょう。

まず、次の譜例は、「1 本弦縛り」を無視して、ある程度自然に弾いたソロになります。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

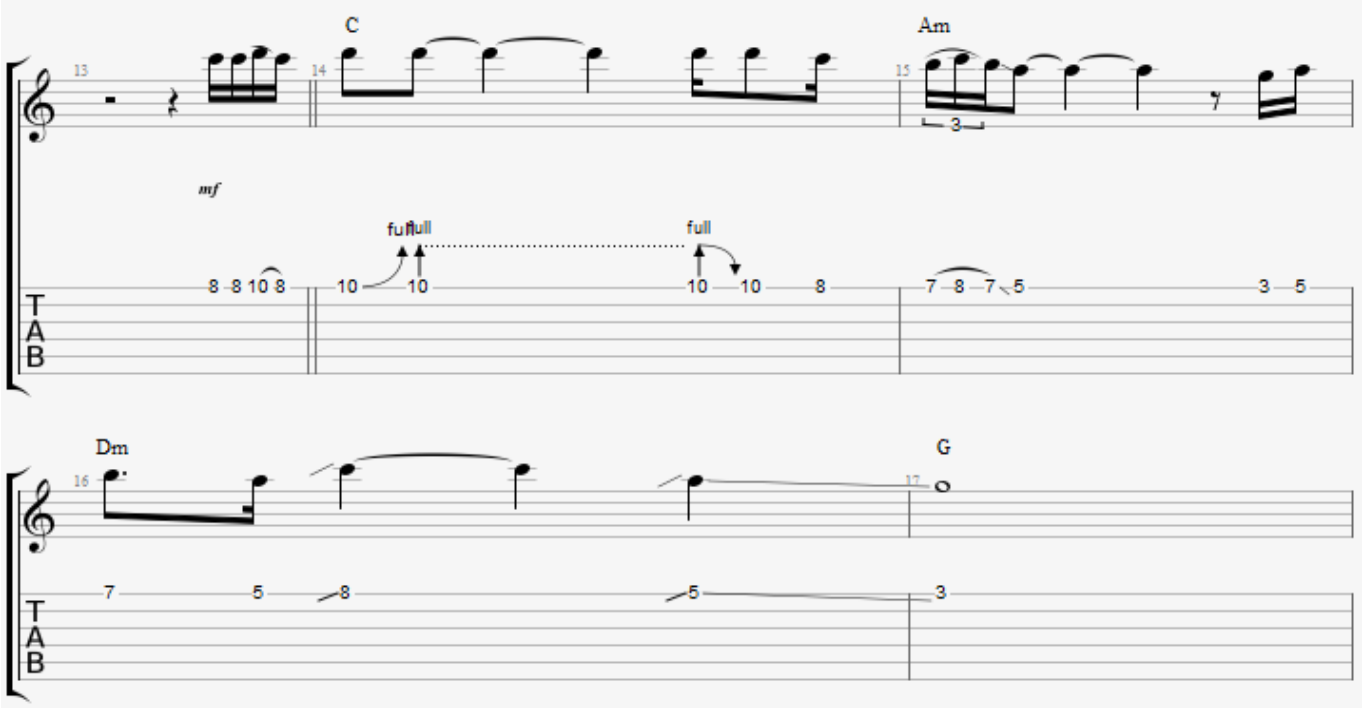
譜例 1



これは、最終的には表現したいニュアンスなどにも関わってきますが、縦移動(複数弦の使用)と横移動をバランスよく混ぜたものです。

で、例えばこれを、1 本弦(ここでは 1 弦)のみで弾くと以下の様になります。

譜例 2



Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

鳴らしている音程自体は同じですが、サウンドもニュアンスも変わりますね。

後は、譜例 2 の方が左手全体をパッと移動させることが多くなっているので、「どのタイミングで移動させるのか？」、「移動させた後、どの指からフレーズを弾き始めるのか?」と言う様な選択肢が生まれます。

今回のテキストの趣旨は、この辺りの判断を「実践の場で出来るかどうか？」を、考えてみよう、と言う事です。(※もしくは実践の場でなくても、普段の練習中に考えているのかどうか？でも構いませんが)

例えば、「(左手を)どのタイミングで移動させるのか？」と言うのは、実質、「前の音をどのあたりで切るのか？」にも繋がっていますよね。(※もしくは、可能なら出来るだけ滑らかに繋ぐ、という選択もあり)

今、提示しているトレーニング自体は前回と同じですが、この様に、ウラでは様々な選択肢があって、そこからベストなものをチョイスしていく、と言う行為が存在しています。

こう言った事を考えながら普段から練習しておくと、表現の幅が広がります。

1 本弦縛りで出てきたフレーズを、複数の弦を使って弾いてみたり、もしくはその逆をやってみたりと、色々と実験してみましょう。

同じフレーズでも、全然違うニュアンスで弾けたりしますので。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved